

東日本大震災被災者の避難所における健康支援チーム活動報告

地域生活看護学講座 畑下博世

滋賀県から、東日本大震災被災者の健康支援活動のための保健師派遣要請に伴い、滋賀県第8班として4月6日～11日の5泊6日の日程で福島県において支援活動を行いました。メンバーは保健師3名、獣医師1名、診療放射線技師1名で、支援場所は福島第一原発が立地している大熊町や、その周辺の被災された住民の方々が避難している田村市体育館と小野町体育館でした。活動の主な目的は被災地を管轄する地元保健所活動に協力し、避難されている住民の方々の健康支援、避難所の衛生管理、その他避難者に必要な支援を行うことでした。現場では福島県保健所保健師のリーダーのもと、大熊町の保健師、ボランティア看護師とチームを組んで活動を行いました。避難所での生活が1か月以上となり、原発の影響により生活への不安やストレスを抱えた住民の方々の支援をどうしていくのかが大きな課題となっています。

避難されている住民の方々は勿論ですが、避難所を運営している職員は24時間体制で活動を行っているために心身ともに疲弊が見られます。また、学校がはじまったことによりボランティア希望者が減少の傾向にあるのが実情です。短期ではなくボランティアも含めた長期的な支援が必要であり、共に活動していくという姿勢が重要であると考えます。

このたびの大震災の被災者の方々に心からお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興をお祈りいたします。

避難所



朝のカンファレンス

